

国語 第5学年 しかけと表現の工夫を見つけて、物語のおもしろさを伝える文章を書こう

検討会の想定問答

指摘 1: ねらいが曖昧ではないか。読み深めるのか、書かせるのか。

返し: 軸は「読むこと」。身に付けさせる力は、表現の工夫に気付くこと ((1)ク) と、表現の効果を考え、物語の全体を具体的に想像すること (C(1)エ)。書く活動はこの力を使う場 (C(2)イ) で、書く技能の指導が主ではない。

指摘 2: 評価規準は何か。態度はどう見るのか。

返し: 三観点で、国立教育政策研究所の参考資料の形に合わせた。知・技は「～している」、思・判・表は「『読むこと』において～している」、態度は粘り強さ・学習の調整・重点の内容・言語活動の四つを含めて「～しようとしている」。態度は見通しと振り返りの記述、読み合いの様子で見る (学年の目標(3))。

指摘 3: 言語活動は何か。

返し: 物語を読み、内容を説明したり考えたことを伝え合ったりする活動 (C(2)イ)。ここでは、まだ読んでいない人に物語のおもしろさを伝える文章を書き、読み合う。

指摘 4: 個に応じた指導はどこにあるか。

返し: 音読の苦手な子へのペア読みと範読、三列の表で目で追えるようにすること、早く終わった子への題名の問い。障害のある児童などへの指導内容や方法の工夫を計画的、組織的に行うことは第3の1(9)にある。

指摘 5: ICTは使わないのか。

返し: 表を共有シートにして線の引き方を見比べる、朗読を録音して聞き直す、の二つを用意した。コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けることは第3の2(2)にある。使わなくても成り立つ設計にしている。

指摘 6: 教科書の手引きどおりでいいのか。

返し: 学習指導要領は、教材の観点と、言語活動が十分行われるよう教材を選定することを定めていて (第3の3(1))、1時間ごとの順序は縛っていない。手引きの流れは参考にし、言語活動の相手と条件 (結末を書かない) はこの学級用に決めた。

指摘 7: 6時間では足りないのではないか。

返し: 知識及び技能は思考力、判断力、表現力等の指導を通して指導するのが基本 (第3の1(3)) なので、表現の工夫の学習を別の時間にせず第2次に組み込んだ。足りなければ第3次の読み合いを朝の時間や次の単元の導入に回す。

指摘 8: 発問が多すぎないか。

返し: 本時の発問は主発問一つで、他は手当て用の補助発問。子どもの予想を一文で書かせてから活動に入るので、発問を重ねなくても目的が共有でき、描写を基に考える時間 (C(1)イ) を長く取れる。

指摘 9: 板書の意図は。

返し: 右から左へ、扉の順番→二人の受け取り方→読む人の気付き、と並べ、「読む人と登場人物のずれ」が一目で分かるようにする。左側の矢印は工夫→効果 (C(1)エ) で、振り返りの型と同じ向きにしている。

指摘 10: 振り返りは何を書かせるのか。

返し: 工夫→読む人への効果の型で二文。日常の言語活動を振り返ることを通して、実際に読む場面を意識できるようにする (第3の2(1)ア)。単元の初めに書いた仮の一文と最後に比べさせる。

指摘 11: 読書にはどうつなげるのか。

返し: 第3次の相手を下の学年や家の人にして、同じ作者の他の物語を学級文庫と学校図書館に置く。読むことの指導は読書意欲を高め、学校図書館における指導との関連を考えて行う (第3の1(6))。読書が自分の考えを広げることに関わりと気付くこと ((3)オ) につながる。

指摘 12：学習指導要領のどこに書いてあるのか。

返し：第5学年及び第6学年の目標(2)、〔知識及び技能〕(1)ク・ケ、C読むこと(1)イ・エ・オ・カ、言語活動C(2)イ。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

